

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月22日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22590593

研究課題名（和文） 介護施設の生活環境とサービスに対する認知症高齢者のニーズ

研究課題名（英文） Environmental and service needs for demented elderly in care facilities

研究代表者 繁田 雅弘 (SHIGETA MASAHIRO)

首都大学東京・人間健康科学研究科・教授

研究者番号：90206079

研究成果の概要（和文）：本研究では、認知症高齢者のケアに携わる専門職を対象とし“自らが認知症を罹患して施設に入った場合”を想定して回答してもらう形式の調査を計画した。「自らが人生最期までの時間を過ごす施設として整えてほしい条件」について、あるいは「最期の時間を過ごす場所を自分で選べるとしたら、どういった基準で施設を選ぶか」について調査した。軽度（FAST4）の段階と高度の段階に分けて、施設で過ごす場合の希望を調査した。

研究成果の概要（英文）： In this research, the questions for professional caregivers were “If you were suffered from dementia and went into the institution, what kind of service would you want.” We investigate the conditions that ‘demented elderly’ want institutions to prepare. Their preference were clarified when they are FAST4 (mild stage of dementia) and FAST6 (severe stage of dementia).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学，公衆衛生学，健康科学

キーワード：介護老人福祉施設，介護老人保健施設，認知症，環境，QOL，終末期

1. 研究開始当初の背景

介護老人福祉施設や介護老人保健施設は療養の場ではなく生活の場であり、環境要因が認知症高齢者に与える影響がきわめて大きい。したがって認知症高齢者のQOLの維持・向上のための環境支援が不可欠であるが、従来の支援は一般高齢者の調査や認知症高齢者の行動観察に基づくもので、利用者のニーズに基づいたものではない。なぜなら認知症高齢者はその障害のため自らのニーズを表示することが困難だからである。

2. 研究の目的

本研究では、認知症高齢者のケアに携わる専門職を対象とし“自らが認知症を罹患して施設に入った場合”を想定して回答してもらう形式の調査を計画した。「自らが人生最期までの時間を過ごす施設として整えてほしい条件」について、あるいは「最期の時間を過ごす場所を自分で選べるとしたら、どういった基準で施設を選ぶか」について調査した。

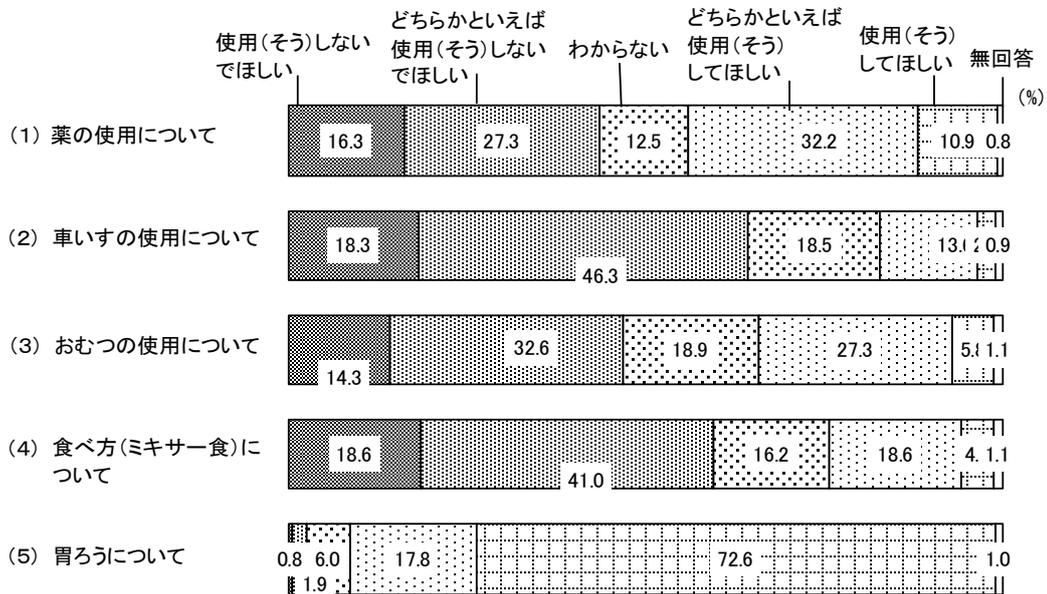
3. 研究の方法

各研修会の開催に先立って、本研究の趣旨と目的、内容を説明し了承が得られた対象者に調査用紙を配布し回答を得た。調査票は研修終了後に回収しデータベースに入力した。アンケートの配布は、日本認知症ケア学会の協力を得て行った。

4. 研究成果

認知症が軽度の段階では、6割が在宅（戸建希望が78%）で「家事」「テレビ・ラジオ」「団らん」「散歩」「趣味」などをして過ごすことを希望し、認知症が進行し高度になった段階では、「車いす」「おむつ」を「使わず」、「食べ方」は「形のままで」、「胃ろう」は希

望しない者が多かった。また、軽度（FAST4）の段階を施設で過ごす場合は「プライバシーへの配慮」「見当識への支援」「病气やけがへの対応」「緊急連絡体制」「環境の調整」「自立支援の工夫」「個室（個室を選べる）」などの希望が多く、高度（FAST6）では、「病气やけがへの対応」「緊急連絡体制」「転倒・転落防止」「スタッフを探せる」「環境調整」などを希望した。人生の最期の半年間を過ごす場合は、「明るい」、「静か」、「穏やか」などを希望し、「暗い」、「冷たい」、「うるさい」、「汚い・不衛生」などを嫌った。以上の結果は、今後の施設環境整備のための貴重な資料になると考えられた（巻末の参考資料を参照）。



(N=1,320)	重要である	ある程度は重要である	どちらとも いえない	あまり重要でない	重要でない	無回答	加重平均値
1. 落ち着いた気分でいられる環境	89.4%	7.0%	0.6%	0.1%	0.0%	2.9%	1.91
2. 必要な援助を受けられる環境	68.2%	26.2%	2.1%	0.2%	0.1%	3.2%	1.68
3. 快適で使いやすい住居環境	58.0%	32.1%	5.5%	1.0%	0.2%	3.1%	1.51
4. 安全な住居環境	62.7%	28.3%	5.2%	0.8%	0.2%	2.9%	1.57
5. 経済的に安定している環境	54.6%	33.6%	7.9%	0.7%	0.5%	2.7%	1.45
6. 医療・福祉サービスを適切に利用できる環境	62.3%	27.7%	5.9%	0.5%	0.3%	3.2%	1.56
7. 人の役に立てる環境	14.8%	40.6%	35.1%	4.3%	2.3%	2.9%	0.63
8. 友人・知人と関係がよい環境	40.3%	40.8%	13.9%	1.2%	0.8%	3.0%	1.22
9. 集まって人と交流しやすい環境	27.3%	39.8%	24.5%	3.9%	1.4%	3.3%	0.91
10. 外出しやすい環境	25.3%	41.0%	24.3%	4.8%	1.6%	3.0%	0.86
11. 必要な情報を得られる環境	32.4%	40.5%	18.8%	3.9%	1.1%	3.4%	1.03
12. 外の人と自由に通信や連絡できる環境	43.8%	36.4%	13.6%	2.3%	0.6%	3.4%	1.25
13. 家族関係が良好な環境	72.1%	20.5%	3.7%	0.2%	0.2%	3.2%	1.69
14. 一緒に生活する人がいる環境	49.9%	31.8%	12.9%	1.7%	0.6%	3.0%	1.33

* 網かけは、割合が最も多かった回答。

次元(目標)	(%)			項目名	(%)		
	軽度	高度	軽度⇒高度		軽度	高度	軽度⇒高度
見当識への支援	54.5	46.2	-8.3	1. 入口や居場所がわかりやすい	72.0	46.4	-25.6
				2. 時刻・日付・季節がわかるような工夫がある	76.4	49.6	-26.8
				3. 部屋毎に個別のトイレや洗面所がある	61.4	35.5	-25.9
機能的な能力の支援	54.5	45.2	-9.3	4. テーブル高や雰囲気づくりなど食事が自立できる支援の工夫	69.9	43.0	-26.9
				5. 調理や洗濯等活動行為の支援の工夫	62.3	23.0	-39.3
				6. 軽い運動や趣味ができる設備がある	60.7	27.3	-33.4
				7. 共用部の設備が使いやすい	60.5	39.8	-20.7
				8. 病気やけがの程度に対応した支援	74.1	69.1	-5.0
				9. 頼めば何でもやってくれる介護体制	16.4	34.8	18.4
環境における刺激の質と調整	40.7	47.2	6.5	10. 日当たり等の環境を調整できる	69.8	65.2	-4.6
				11. 会話や音楽など意味のある良質の音の提供	42.3	40.5	-1.8
				12. 画一的でなく家庭にあるような壁や床	39.2	30.7	-8.5
				13. 生活を感じさせる香り(花、食べ物)	52.7	42.3	-10.4
安全と安心	64.9	76.0	11.1	14. 床の材質などに危険への配慮がある	60.6	61.5	0.9
				15. 何かあった時確実に職員に連絡できる	73.0	71.4	-1.6
生活の継続性	43.6	37.0	-6.6	16. 生活や介護に十分なスペースが確保されている	57.3	59.3	2.0
				17. 不安等感じた時すぐにスタッフを探せる	54.1	67.9	13.8
				18. 転倒や転落を防止するような工夫	61.2	69.1	7.9
				19. 好きな時間に入浴や食事ができる	34.2	21.3	-12.9
				20. 使い慣れたテレビ等持ち込める	45.8	33.4	-12.4
				21. 植木を置いたり絵画を飾る事ができる	47.1	32.0	-15.1
				22. 草木の手入れや小動物との関わりができる	38.9	29.1	-9.8
				23. スタッフの服装に家庭的な雰囲気がある	21.9	21.3	-0.6
自己選択	61.1	39.5	-21.6	24. 以前の生活習慣を継続できる	47.5	29.8	-17.7
				25. 居室が個室である	67.6	45.0	-22.6
プライバシーの確保	70.0	57.0	-13.0	26. 居室以外にも一人になれる場所がある	39.5	30.1	-9.4
				27. ベルト等行動を制限する手段を用いない	47.3	38.5	-8.8
ふれあいの促進	28.5	31.4	2.9	28. プライバシーに配慮した設備やルール	77.9	65.7	-12.2
				29. リビングで居住者と一緒にくつろげる	44.0	37.3	-6.7
				30. 家族等と気兼ねなく過ごせる場所がある	66.0	55.5	-10.5
				31. 共用空間に腰掛けるイス等がある	54.5	43.0	-11.5
				32. 昔の生活を思い出せるような小道具が置かれている	28.0	30.7	2.7
				33. 社会的な役割や仕事がある	37.7	20.8	-16.9
				34. 気軽に外出ができる	49.5	21.2	-28.3
35. 地域の人達と交流できる場所や行事がある	31.4	21.0	-10.4				

* 「そのほうがよい」の割合
 * 右表の35項目の網かけは、上位トップ10位の項目。
 * 軽度-高度の列の網かけは、高度でプラスになったもの。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：
 [その他]
 ホームページ等
 大学のリポジトリに収載予定

6. 研究組織

(1) 研究代表者

繁田 雅弘 (SHIGETA MASAHIRO)
 首都大学東京・人間健康科学研究科・教授
 研究者番号：90206079

(2) 研究分担者

藪脇 健司 (YABUWAKI KENJI)

吉備国際大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：20347280

(3) 研究分担者

古賀 誉章 (KOGA TAKAAKI)

東京大学・工学（系）研究科（研究院）・

助教

研究者番号：40514328

(4) 研究分担者

山田 あすか (YAMADA ASUKA)

東京電機大学・未来科学部・准教授

研究者番号：80434710